

# 米山梅吉記念館 春季例祭 お知らせ

多くの皆様のご来館をお待ち申し上げております。

[日時] 平成28年4月23日(土)午後2時~

[場所] 米山梅吉記念館ホール

●講演

[講師] 加藤 丈夫 氏

独立行政法人国立公文書館館長  
富士電機株式会社会長、取締役会議議長、相談役、特別顧問歴任。  
企業年金連合会会長、学校法人開成学園理事長、学園長就任など多数歴任。  
2014-15年度東京ロータリークラブ会長

[演題] 時を貫く記録を守る

-世界に誇る公文書館の実現に向けて-



●アトラクション

紙切り作家  
水口 千令さん

(みずぐち ちはる)  
作品は心を込めて手から手へ。  
幸せでありますようにと願いを込めて。  
2010年、上海万博、日本産業館パフォーマンス  
2013年、ヨーロピアンフェア 日本ステージパフォーマンス



●懇親会 [登録料無料]

参加者ご一緒に楽しい語らいの時を

表紙

解説



青山学院初等科については、記念館が創立35周年を記念して出版した『超我の人 米山梅吉の聲音』の中の「米山梅吉の教育奉仕」に以下の文章があります。

「大正12年の関東大震災はこの学院にも大被害をもたらした。米山はこれより先に故長男東一郎の記念にと銃剣道場を寄付していたが、この建物だけは倒壊を免れ、ここが復興の拠点となった。米山理事の協力などで、学院はめざましい復興発展をとげた。(中略)

石坂院長が勇退した際、長年の功労に報いるため、学校が石坂に贈った住宅土地は米山の寄贈によるものであった。三井の重役さんだから、米山さんはそんな寄付ができたのだと人は言う。しかし米山の偉いところはそれだけにとどまらなかったところであり、この協力は米山の教育論に裏付けされていた。米山は大学としての整備充実よりも大切なことは、初等教育の充実だと考えていた。

その実践が青山学院初等科の創立であった。校舎は昭和12年に竣工したが、これは米山が全額私財を投入したもので、外からの寄付は一切仰がなかった。(中略)

昭和12年4月、男女各25名計50名が入学した。初代校長は米山梅吉で、その経営方針が残っている。今のようなPTAなど一切必要としない独断とも言える自信と決意にあふれたものであった。

米山はこれにもあきらまず幼稚教育に情熱を燃やし、小学校附属として緑岡幼稚園を開園、建設費はこれまた米山が一切担当した、と文章は続きます。幼稚園園長には春子夫人が就任しています。

## 米山梅吉記念館のご案内

新幹線三島駅よりタクシー5分  
東名沼津ICより15分

【開館時間】午前10時~午後4時

【休館日】●月曜日

●12月28日~1月4日

●整理のための休館日(5月・8月の特定日)

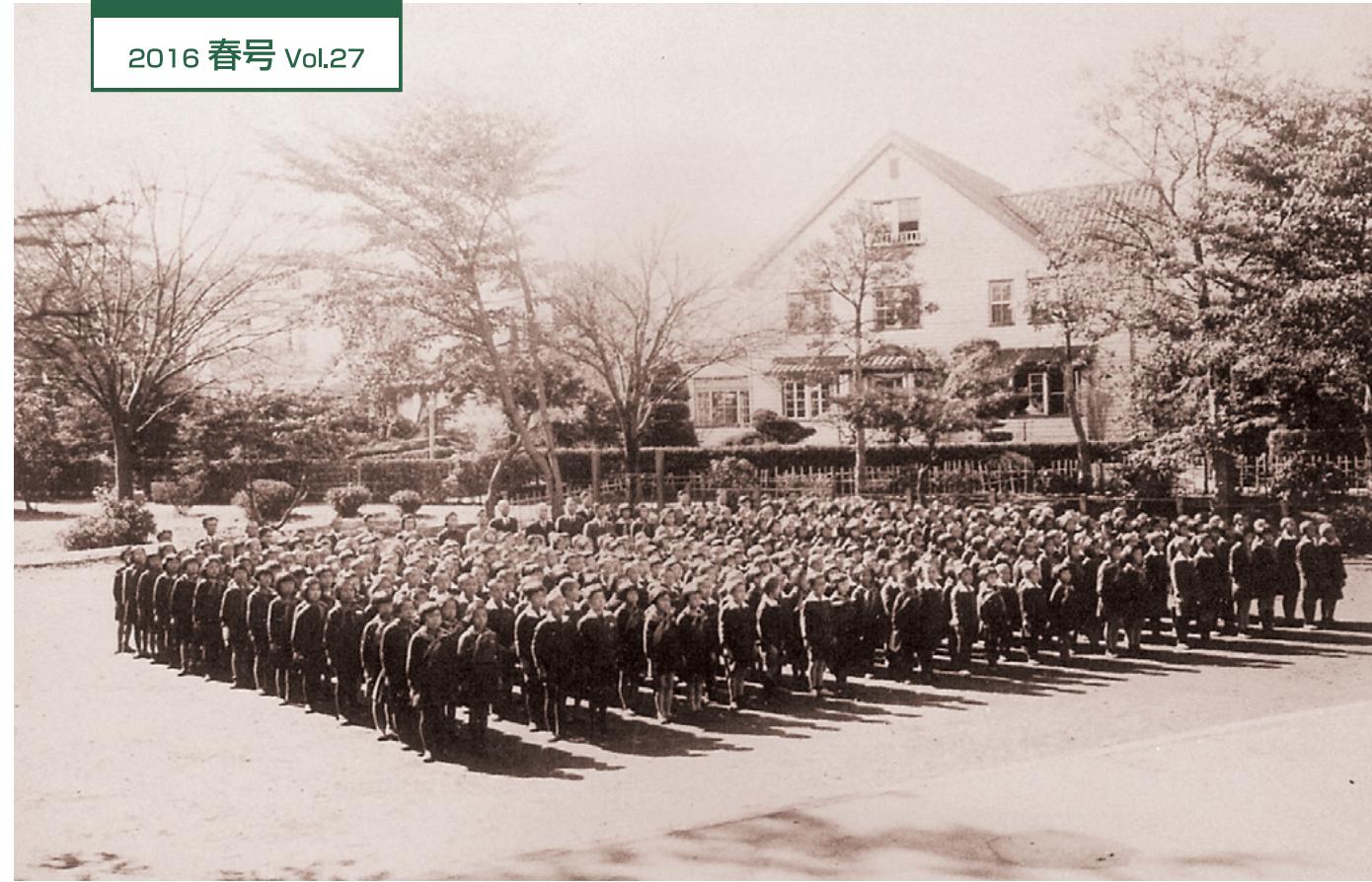
# 米山梅吉記念館 館 報

2016 春号 Vol.27

THE YONEYAMA UMEKICHI MEMORIAL HALL REPORT



公益財団法人 米山梅吉記念館



青山学院緑岡小学校全校児童及び職員 写真提供:青山学院資料センター

青山学院緑岡初等学校は米山梅吉が私財を投げ打って建設・創設した小学校である。米山69歳の昭和12年5月4日を開校記念日と定め、校長、理事長に就任して、青山学院に引き継ぐ昭和21年まで経営した。

「米山梅吉伝」の中の笛森順造氏(元青山学院長・元国務大臣・参議院議員)「処人藪然の先生」には次のように書かれている。「米山先生は青山学院の全体に心をお配りになり、その興隆のために最も頼み甲斐のある大先輩として力を注いで下さいましたが、特に学院の緑岡小学校のためには御自身の負担に於て創立し維持し経営し、教育と行政の全責任を完うされ、生徒の愛育に尽くされたその熱情は誠に涙ぐましいものがありました」。

これから國を担うための幼年期教育の必要性を説いた米山が、自身の信条をそのまま体现しようとした緑岡初等学校は、米山の夢の結晶であり実践の場でした。開校当時の米山の心情に思いをはせ、ロータリーと呼応して奉仕先導した米山梅吉に会いに記念館をお訪ねください。

校訓「人々にしてほしいと、  
あなたが望むことを  
人々にもその通りにせよ」

## 緑岡初等学校

私財を投じ、  
精魂を打ち込み  
完成させた小学校は、  
米山梅吉の夢の結晶。